

令和2年度 北海道青少年育成運動推進指導員アンケート調査結果の報告

公益財団法人北海道青少年育成協会

1. 目的

令和元年度末から令和2年度の今日に至るまで、新型コロナウイルス感染症により、長期間に亘る学校の臨時休業や家庭での自粛生活が求められ、学校再開後もマスク、手洗い、学校行事が制限されるなど、子供たちの心身に大きな影響を与えている。

令和2年度から、新たな3年間の任期でスタートした北海道青少年育成運動推進指導員（以下、推進指導員。）には、このコロナ禍を機に「青少年の育成」のあり方について見つめる機会として本調査を実施した。

2. 調査期間

令和2年6月～7月

3. 調査対象

北海道青少年育成運動推進指導員（231人）

4. 調査方法

郵送配布し、FAXまたはメールで回収

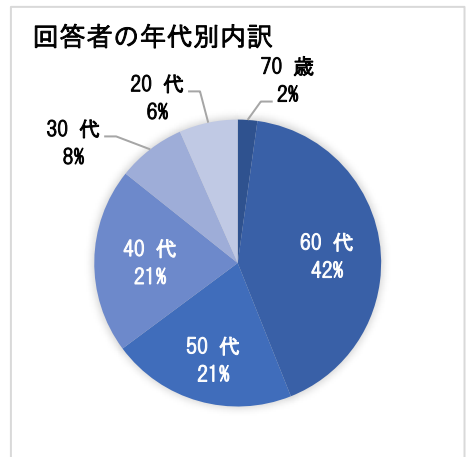
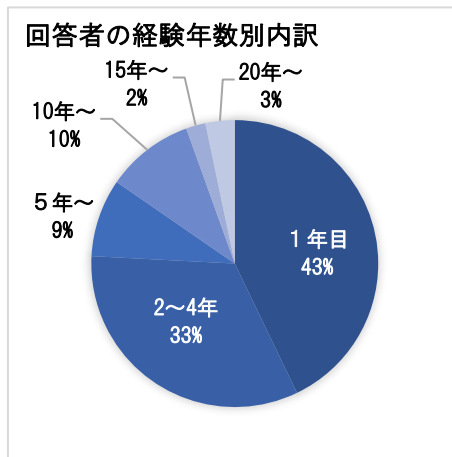
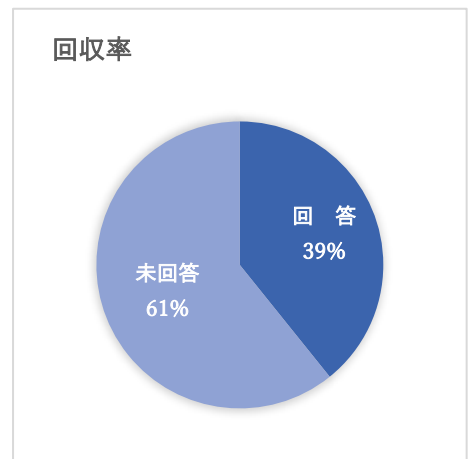
5. 回収状況

回答者：91人（回収率39%）

6. 回答者の内訳

経験年数	人数
1年目	39
2～4年	30
5年～	8
10年～	9
15年～	2
20年～	3

年代	人数
20代	6
30代	7
40代	19
50代	19
60代	38
70歳	2



7. 調査結果

質問項目毎に、回答者数、結果の概要、グラフ等の内容で表した。Q2～Q7については、一人の回答者が複数の内容を記載している場合もあることから、主な内容をキーワードで分類した。従って件数で集計しており、回答者数とは一致しない。その分類はグラフに記載した項目を参照いただきたい。また、Q8～9は、回答者の思いの一部を6pに記載した。

なお、全項目に回答を求めたものではなく、質問によって回答者数が違うことを申し添えておきたい。

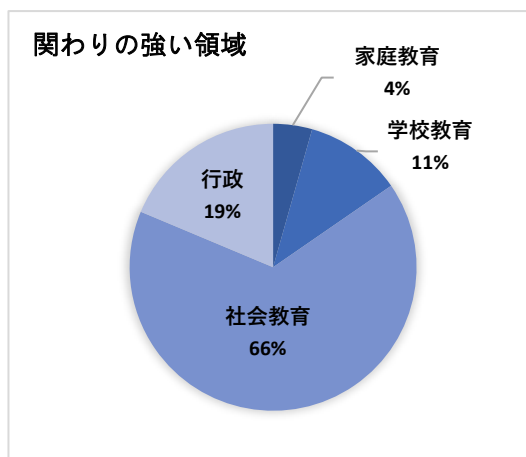
Q1 あなたが、青少年の育成に携わる立場で、最も関わりの強いものを選んでください。

家庭教育 学校教育 社会教育 行政 その他

この問いは、「最も関わりの強い」領域を聞いたものである。社会教育が66%、行政19%、学校11%、家庭4%と続く。「家庭・学校・地域が一体」となって取り組むことが重要であるとの認識は、どの立場にあっても共通であり、Q2以降の回答から読み取ることができる。

なお、その他でチェックを入れた推進指導員の中で、子ども会や少年団などに携わっている方については、社会教育で整理した。

領域	人数
家庭教育	4
学校教育	10
社会教育	60
行政	17
計	91

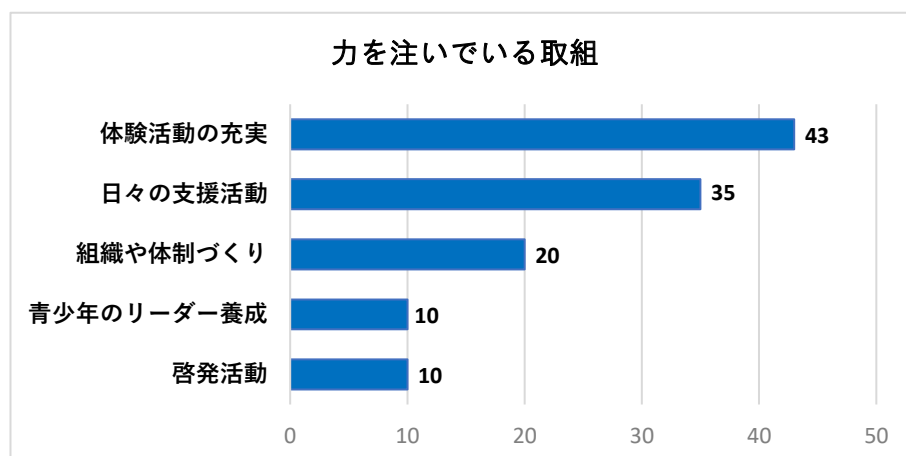


Q2 あなたのまちで青少年の育成に、特に力を注いでいることはなんですか。

この問いについては、82人から回答があった。主な内容を5つに分類した。

最も多いのは、「青少年の体験活動」に力を入れている、が43件であった。自然や産業、指導者など「その地域ならではの」あるいは「ふるさとを意識した」体験活動に取り組んでいるという記述が多かった。

また、日々の支援活動として挨拶や見守り、学習支援などの活動が35件、青少年の育成にまちぐるみで取り組む組織や体制づくりが20件、青少年のリーダー養成が10件、標語募集や看板設置などの啓発活動が10件と続いた。



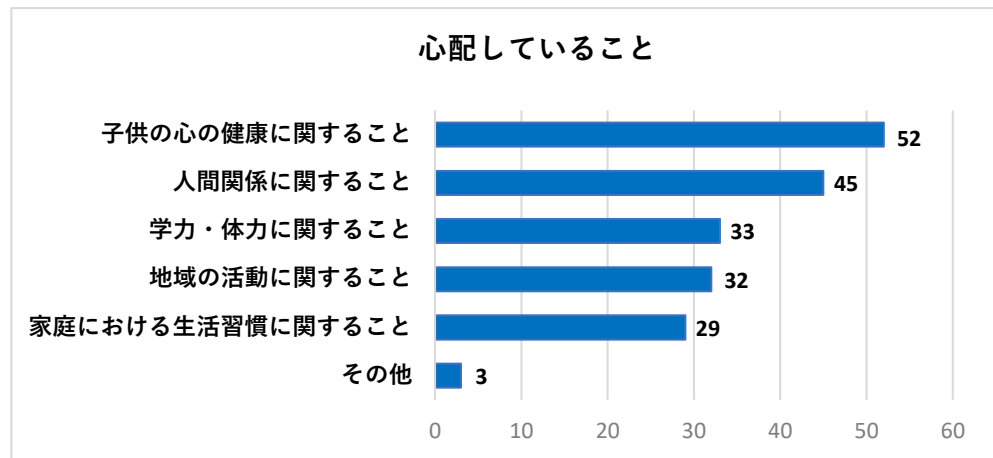
Q3 新型コロナウイルス感染症の影響で、あなたが今一番心配していることは何ですか。

この問いについては、90人から回答があった。主な内容を5つに分類した。

最も多いのは、コロナ禍にあって、子供(児童・生徒)たちの心身に与える影響を危惧する内容が52件であった。特に、大きな不安やストレスを和らげるメンタル面のサポートの必要性が挙げられている。

次に、人間関係に関してが45件。学校の臨時休業により家庭で心配される児童虐待、学校再開後の不登校やいじめ問題、中には集団生活で学ぶ機会の喪失を危惧する声もあった。

学校教育に関する内容として、学力・体力の低下等に関する内容が33件、地域で子供たちの居場所や活動の場の確保や行事の中止等を懸念する内容が32件、家庭における子供たちの生活習慣の乱れ、子供の貧困問題等を心配する内容が29件となっている。

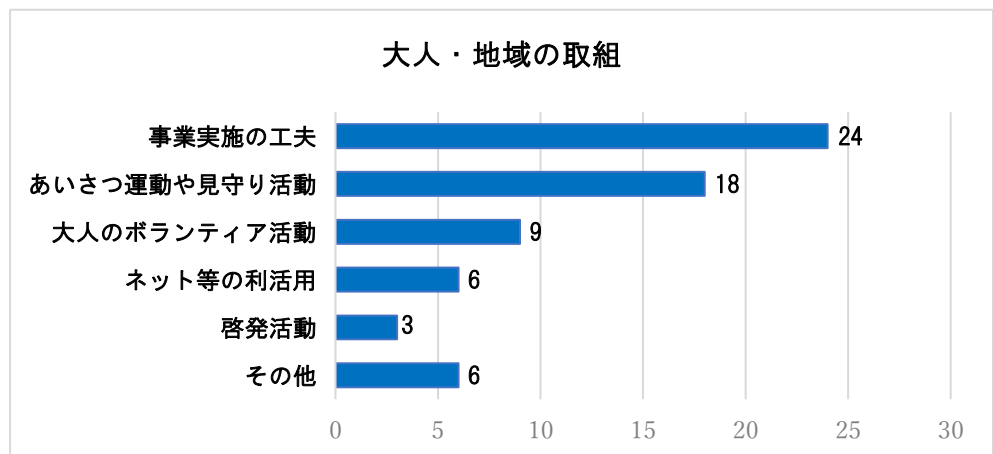


Q4 新型コロナウイルス感染症に伴い、あなたが、あなたの地域で青少年の安全・安心な環境づくりに「取り組んだ」または「取り組んでいる」事例がありましたらお書きください。

53人から回答があり、「大人・地域の取組」として整理した。主な内容を5つに分類した。

最も多かったのは、事業実施に向けた工夫が24件であった。コロナ禍だから事業を中止にする判断だけではなく、工夫することで子供たちの居場所・活動機会を確保し、家庭や子供を孤立させない取組を模索し実施している。

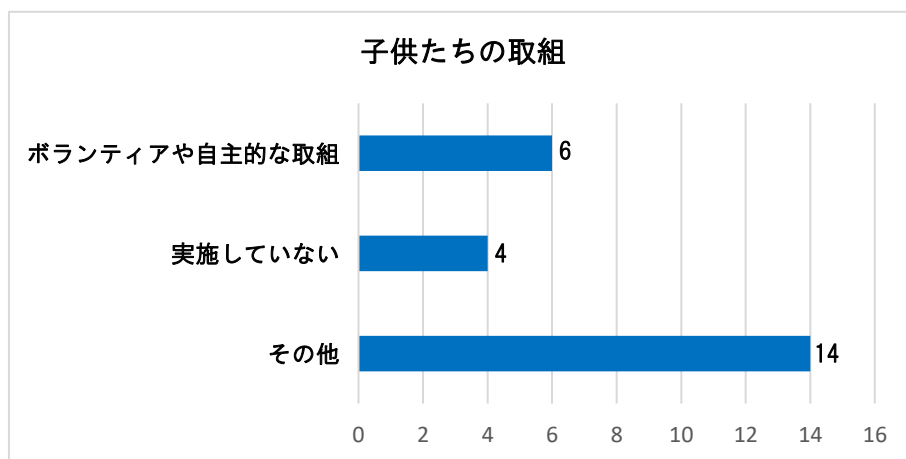
次に、あいさつ運動や見守り活動を積極的に行うとした内容が18件、手作りマスクを小中学校等へ寄贈するなどボランティア活動が9件、オンラインで家庭と学校を繋いだり子供たちと連絡を取り合ったりするなどネット等の利活用6件、啓発活動が3件と続く。



Q5 新型コロナウイルス感染症に伴い、あなたの地域の青少年が自発的に「取り組んだ」または「取り組んでいる」事例がありましたらお書きください。

24人から回答があり、「子供たちの取組」として整理した。中高生が手作りマスク・フェースシールドをつくり学校や介護施設に贈呈するなど、ボランティアや自主的な取組は6件であった。学校の臨時休業、外出自粛により、現状では子供たちが取り組むことは難しいので実施していないが4件であった。

また、感染防止対策の徹底など、子供たちが安心して活動できる環境づくりを進める大人の支援・啓発活動が14件あり、「その他」で整理した。



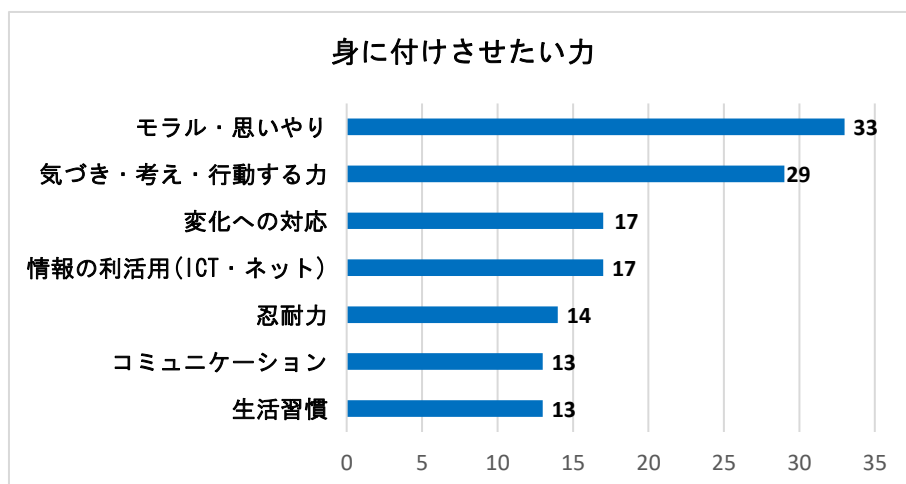
Q6 新型コロナウイルス感染症の経験を通して、あなたは、これから青少年がどのような力を身に付けることが必要だと思いますか。

88人から回答があり、7つに分類した。

まず、モラル・思いやりに関する内容が33件と最も多かった。誹謗・中傷により人を傷つけない、孤立させないなど、コロナ禍の状況では気がかりな点である。

次いで、新しい生活様式が求められている中、自他の生活に起きる課題や問題に対して、自ら気づき・考え・行動する力の必要性が29件、同様に社会の変化を受け止め柔軟に対応できる力が17件と続く。

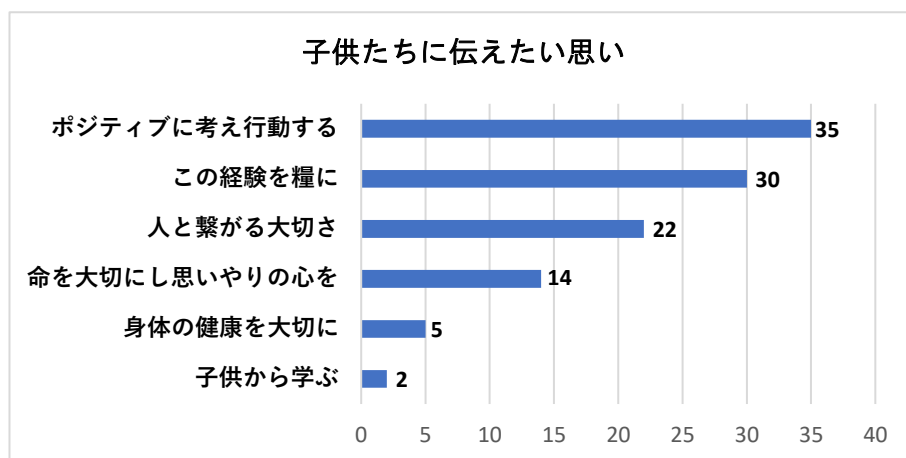
また、リモートワークやオンライン授業について情報機器の利活用に関する内容が17件。次に我慢を強いられる、諦めないなどの忍耐力が14件、直接人と関わる事への懸念も含めたコミュニケーションが13件、こういう時期だからこそその規則正しい生活習慣が13件と続いた。全ては「生きる力」である。



Q7 あなたが今、子供たちに「伝えたい思い」をメッセージとしてお書き下さい。

74人から回答があり、6つに分類した。

「立ち止まっても仕方がない」、「物事を前向きに捉えよう」、「ピンチをチャンスに」などポジティブに考え行動しようといった思いが35件。「コロナ禍の経験は決して無駄にならない」、「この経験を糧にして未来に繋げて欲しい」が30件。「こういう時だからこそ、人との繋がりを大切にしたい」が22件。「命を大切に思いやりの心を持って」が14件。「身体の健康を大切に」が5件であった。



最後に件数は少ないが「子供から学ぶ」として項目分けした2件を紹介しておきたい。

- 自粛期間中、みなさんはルールをよく守り過ごし、とても立派でした。大人も見習わなければと思いました。
- 皆さんがそれぞれ感じたり悩んだり、考えたりしたこと、ぜひ聴かせてほしいです。みなさんの居場所をこれからも大切にしていきたいです。

Q8 その他ありましたら、ご自由にお書き下さい。(次ページに記載概要を紹介)

22人から回答があった。主な記載内容は次のとおりである。

- 大人が子供に誇れる生き方を見せること
- 憧れる存在になることが必要だ
- 子供たちの活動の場・発表の場を何とか確保してやりたい
- この状況の中で子供・若者たちと共に考え・行動することが大切
- 国と地域の宝である子供たちが強く生きられるよう認め・支える環境づくりを
- 高齢化・担い手不足だからこそその三者(家庭・学校・地域社会)連携・協働が必要などが記述されている。

Q9 最後に当協会へのご意見・ご要望がございましたらお書きください。
(次ページに記載概要を紹介)

16人から回答があった。記載内容としては、当協会の役割に対し、会議や研修機会を通じて多くの事例紹介と子供・若者の声の発信機会を増やすなど情報提供の充実を図ること、推進指導員相互の交流の場の充実と推進指導員を広くPRすること、推進指導員の年齢制限などについてである。

これらの意見・要望については、当協会として検討を図り、今後よりよい事業運営ができるよう努めていきたい。

Q 8 <自由記述>

記 述 概 要

- 社会が殺伐とし過ぎているように思う。子供たちが「あんなふうに／あんな人に」なりたいたいという夢や希望の対象となり得る「成熟した大人社会」を見せていくことが大事。
- 私たち大人は、自らやるべき事を見つけ、先を見通し真剣に取り組み続ける姿で子供たちに模範を示すことが大事。
- 「友達と会いたいな」と休校中に言っているお子さんのお話を聞いた後に「これからこっそり BBQ の集まりがある」と、コロナ禍で大人に対して失望する子供が増えなければいいのだが。
- 青少年の健全な成長には、周りの大人の健全な関わりが必要。大人はちゃんと意識を高く持って、青少年の憧れる存在になれたらいいな。
- 少子化における今後の部活動のあり方、子供たちの発表の機会の減少が気の毒
- 新型コロナウイルスは私たちに様々な変化やきっかけをもたらした。大きく影響を受け、形を変えていく社会の中で、私たちに何ができるのか、どう生きていくべきなのか。子供・若者たちとともに歩きながら考え、行動していくことができたらと思う。
- 若い人が社会問題を考え、アイデアを地域振興に活かしているニュースを見る。課題に取り組むアイデアを、実践力を大切に、認めていける環境が大事。自ら課題を見つけて解決する力を育むことが必要な時代。
- 私たち地域に暮らすものとしては、青少年（子供たち）は宝物。本当に大切な存在。そんな子供たちがこれから私たちには想像すらできなかった時代を過ごしていく。そんな中でも常に前を向いて、新しい時代を拓いて行ってほしいと思う。私たちは常に応援していく。
- 子供の数が少なくなっている現状、子供の生活と命を守り次世代に繋げる地域の仕組みを作ることが必要。子供は親のものではなく、国や地域の大切な宝であり未来そのもの。
- 青少年の携帯は当たり前前に所持されている時代。2025年、2030年にはどのようなになっているのだろうか。と先のことを考えてしまうこの頃。
- 高齢者のまちカフェがあるように、青少年のまちカフェがあるといいな。
- 親が子供に関わりすぎ、結果として、子供の自立の芽を潰している。子供の自主性を尊重しつつ、一人の人間として認め、関わる必要がある
- 新型コロナウイルスを想定した行事活動を具体的にどのように実践していくのか。攻めの姿勢が大切と思う。行事を進めていく過程でいろいろと問題があると思うが、知恵を出し合うこと。

Q 9 <当協会への意見・要望>

記 述 概 要

- 推進指導員候補者の年齢制限を引き上げてほしい。現役世代の年齢が高くなっており、新任の候補者選定が難航。気力・体力あふれる70代も多いのでは。
- 世界的な非常事態の状況下にあるこの時期を捉え、私たち大人が改めて「青少年の育成」について見つめる機会にしたいというポジティブな事務局の発想と取組は素晴らしい。
- 子供たちの前向きな取組「個別の事例等」について情報提供してほしい。
- 地域の子どもは地域が育てる。是非とも「こども食堂」という社会インフラにも国が、道が積極的に財政支援をとの声を伝えていただきたい。
- 現状、ただ存在しているというような状況。もう少し、行政や警察等と協力できる体制を構築し、地域間ネットワークを充実してほしい。
- 指導員の定年は必要だが人材に定年はない。役員の顔が見えない。
- 「少年の主張」のような青少年の声を聴き、発信できるような企画が増えていくと面白い。
- 指導員の任期について撤廃または、延長を希望。理由)人材不足、高齢者が活躍。